

きょうりゆうすてごの大ぼうけん

奄美市立笠利小学校　一ねん　あかつか　たつうみ

ようのうみの「ちんじいわ」に大きくてつよいきょうりゆうがいました。なまえは「すてご」。からだが大しくて、はがぎらぎらで、めつきがするどくて、あきもくまのみもこわくてよってきません。ひとりぼっちでした。

あるひのこと、にんげんよりも大きいきんいろのさかなが、すてごにちかよってきました。そして、「おれとたたかいをしよう。おれにかつたら、ぱあとなあになつてやる。」

といました。すてごが、

「ぱあとなあつて、なあに。」

とたずねると、きんいろのさかなは、

「なんでもいっしょにするなかつてことだ。」

とこたえました。すてごはげんきよく

「わかつた。」

とこたえました。

二ひきは、たいあたりでたたかいました。どかんどかんとおとがしました。ぶるんぶるんとちんじのいわがゆれました。

さいごに、すてごがかちました。きんいろのさかなは、やくそくどおり、ぱあとなあになりました。

二ひきは、かせきさがしのたびにでかけることになりました。ものしりのくもから、かせきはきらきらしてきれいだと、きいたことがあつたからです。

すてごときんいろのさかなが、うみのなかをすすんでいると、ぴかぴかのきびなごのむれにでいました。きびなごたちがいいました。

「よる、とつぜん、この大いわがふってきました。じやまでこまっています。」

それをきいたすてごときんいろのさかなは、ちからをあわせて、たいあたりをはじめました。どしんどしんとおとがしました。しゃしゃしゃしゃと、うみがゆれました。さいごは、二ひきのとくいわざのすつきをつかつて、そのいわはくずれました。きびなごたちは、

「わあい、ありがとう。おれいにかせきをあげます。」
といて、一こずつかせきをくれました。それは、うみへびのかせきでした。ながあくて、しましものもようがついているめずらしいかせきでした。

すてごときんいろのさかなは、かせきをひかりのほうへすかしながら、

「これでほんとうのぱあとなあになれたね。」

とよろこびました。

すてごがきびなごをたすけたことはみんなに伝わ
わり、すてごは、あぎやくまのみとも、ともだちにな
りました。いまでは、すてごのあしのあいだをつかい、
あぎやくまのみがおにごっこをしています。どんど
なかまがふえていきました。

「さいしよはこわかったけど、すてごは、やさしくて
いいやつだ。」

ときんいろのさかなはいいました。すてごは、

「みんな、ぼくのことをきにくれてよかった。

これもぼうけんのおかげだ。きんいろさかな、あり
がとう。」

とおれいをいいました。

